

山 事 研 會 報

山梨県公立小中学校事務職員研究会 編集発行人 調査広報部

第 22 号 平成 21 年 9 月 14 日 発行

平成21年度 第2回研修会 開催

平成 21 年 8 月 3 日、南都留学校事務研究会との共催で、富士吉田市の南都留教育会館において開催されました。参加者は 61 名、有意義な研修会となりました。

「新学習指導要領に対応した学校予算のつくり方」

講師：浅川 晃雄先生

(元東京都公立小学校事務職員)

講師の浅川先生は、現在『学校事務誌』で「じむ誌となかまの周辺」を連載中です。また、著作に学校事務誌 2009 年 1 月号別冊付録「新学習指導要領に対応した学校予算のつくり方」等があります。研修会では、元事務職員としての体験談を交えながら、分かりやすく講演してくださいました。

学校経営ではなく教育経営（カリキュラム経営）が望ましいことや、4M（人・もの・金・マネジメント）に Mind「おもい」を加えた 5M で対応していくことなどを講演してくださいました。



また具体的には、在職時に教材の公費・私費の取扱い基準を作成し、学校のホームページで公開したそうです。私費と公費を明確化し、共通理解の下、よりよい教材の提供と保護者への負担を最小限にするために作成されたそうです。また、行事等で購入した物品について一品一品記載しておき、次年度の予算要求の資料にするなど、よりよい予算要求の仕方を教えて頂きました。

研修中の「学校事務を受け身でやってほしくない」という言葉や、浅川先生の学校事務に対する思いを受け、私達も視野を広げ様々なことに積極的に挑戦して行こうする気持ちを忘れてはいけなかったと思います。有意義な研修会でした。

| | |
|--|--------------------------------------|
| | 第41回 全国公立小中学校事務研究大会（福岡大会） |
|--|--------------------------------------|



大会テーマ **子どもの豊かな育ちを支援する学校事務**

サブテーマ **つなげよう！新たな挑戦へー飛梅にのせ全国へー**

特集テーマ **学校の裁量権拡大と学校財務制度**

開催日 **平成21年8月5日～7日**

詳しくはこちら→<http://fukuoka.zenjiken.jp/>

暑い九州の夏！

全国から一堂に会した事務職員。

どんな様子だったのでしょうか！？

福岡大会に参加されたお二人の方から、参加した感想をいただきました！

全国公立小中学校 事務研究大会（福岡大会） に参加して

甲府北中学校 松山寿子

申し込みが遅かったために、参加したかった分科会が一杯で、二度の申し込みでなんとか参加となったのが、今回私が参加した第4分科会でした。分科会冒頭で、長崎支部の方曰く、最後に残った分科会で人気がない分科会ですが（笑）と言っていました。分科会会場は満員にちかい参加者で熱心な討議がされました。

第4分科会は、長崎支部の「学校事務新時代を迎えて ～『長崎の鐘』を鳴らそう～」をテーマにした提案でした。長崎県は多くの離島を抱え、学校が置かれている環境も都市部・郡部・離島部と大きく異なります。そのように異なる条件のなかで、「学校事務の共同実施」を行い、これからの学校事務の可能性を求めて試行錯誤してきた跡が伺われました。環境が違えばその地域の実情に即した実施があり、共同実施

の数だけ共同実施のやり方があるのだと感じました。

大会中は『学校事務職員』という職種に夢と希望が持てた時間でした。事務職員の存在意味が問われ、学校組織全体の事務改善や学校と地域の連携への課題解決に向けた事務職員の活躍が期待されていることを感じた3日間でした。分科会のなかで、助言者が最後に「自分の得意分野を伸ばしながら、互いに支えつつ、こういう事務職員でありたい、こういう学校で働きたいという夢を持ち、希望を持ち続けることが大切だ」と話された言葉は印象に残りました。今回この大会に参加したことにより、自分自身をリセットすることができた良い機会となりました。

第6分科会に参加して

～学校教育と学校財務～

大月東小学校 高山美季

「学校教育目標達成するための学校財務の在り方」のテーマにのせ～財務で勝負！！火の国くまもとからの熱いメッセージ！～を受けてきた。

「学校財務」の概念が浸透しない・・・原因を探るため「チームくまもと」が出発。「学校財務」とは、「収入・支出における全てのものとする」を研究の定義とした。

○くまもとの学校事務実践

・H13年に学校管理規則の見直しがされ、校長に学校予算の専決等が拡大、教頭と事務主幹に一定の専決権が付与。H20年度共同実施主任に専決権（諸手当認定・旅費請求等）が付与され、財務規定ができた人吉市の諸規定整備の取組が紹介された。

・「処理する仕事」から「関わる仕事」へ広げるため、H18年度から学校組織マネジメントの取組を始めた、泉第七小の実践が紹介された。

・学校運営への参画に西原村各校で「事務部経営案」を作成し、自己評価・管理評価にむけ、経営サイクルPDCAを事務部に導入した実践が報告された。

・八代市の正三角形理論と会計一元化の取組は、教育計画＝支出計画＝収入計画という正三角形の関係が予算要求時に存在するとした。これには私費も含まれ、公費とのバランス・無駄のチェックが可能となるシステムである。

○教育目標を達成するための学校財務の在り方

・学校と他の行政機関との意識調査を通して、財務に対する意識の浸透を考える。

・考察から、学校以外の行政機関は地域のニーズが基（事業＝目標）になり、学校は学習指導要領などの教育内容が基（目標が具体的でない）になる。

・学校事務職員の「教育活動＝事業」という意識が未熟である。そのため目標達成感は、「滞りなく処理できた」という部分になる。



○ 助言者より

（前全国PTA会長）

・学校の先生と親のエキスを受けた子どもに成長する。「校風」で学校を変えよう。「失敗は力となる」の心意気があれば頑張れる。

・三位一体（先生・保護者・子ども）の信頼関係をつくり、地域の中で「核」となる学校作りをして欲しい。

（五ヶ瀬町教育長）

・教育課程（教育目標の内容・時間）は「校風」を作る。目標と予算のリンクが重要。

○まとめ

・現状の「処理する人」から抜けだし、学校運営の参画につなげていく必要がある。

・給与や旅費、福利厚生などの定型的な学校事務の領域は、省力化・外部化対象となっていく。学校事務職員自身が教育課程や教育活動を理解することに努め、組織マネジメントの手法を取り入れ、学校運営組織の改善を目指したい。

☆夜の部☆

○1日目には、博多（天神）の屋台で、焼き鳥・餃子付でラーメンを食べた。特徴はさっぱりトンコツ味に、にんにくを焦がした油のり「グー」でした。

○2日目は福岡ドームに行っちゃいました。外野の応援団席の前でトランペットに合わせ、地元の人に混じって思いっきり騒ぎました。試合はボロ負けでしたが、気分は何故かスッキリでした。